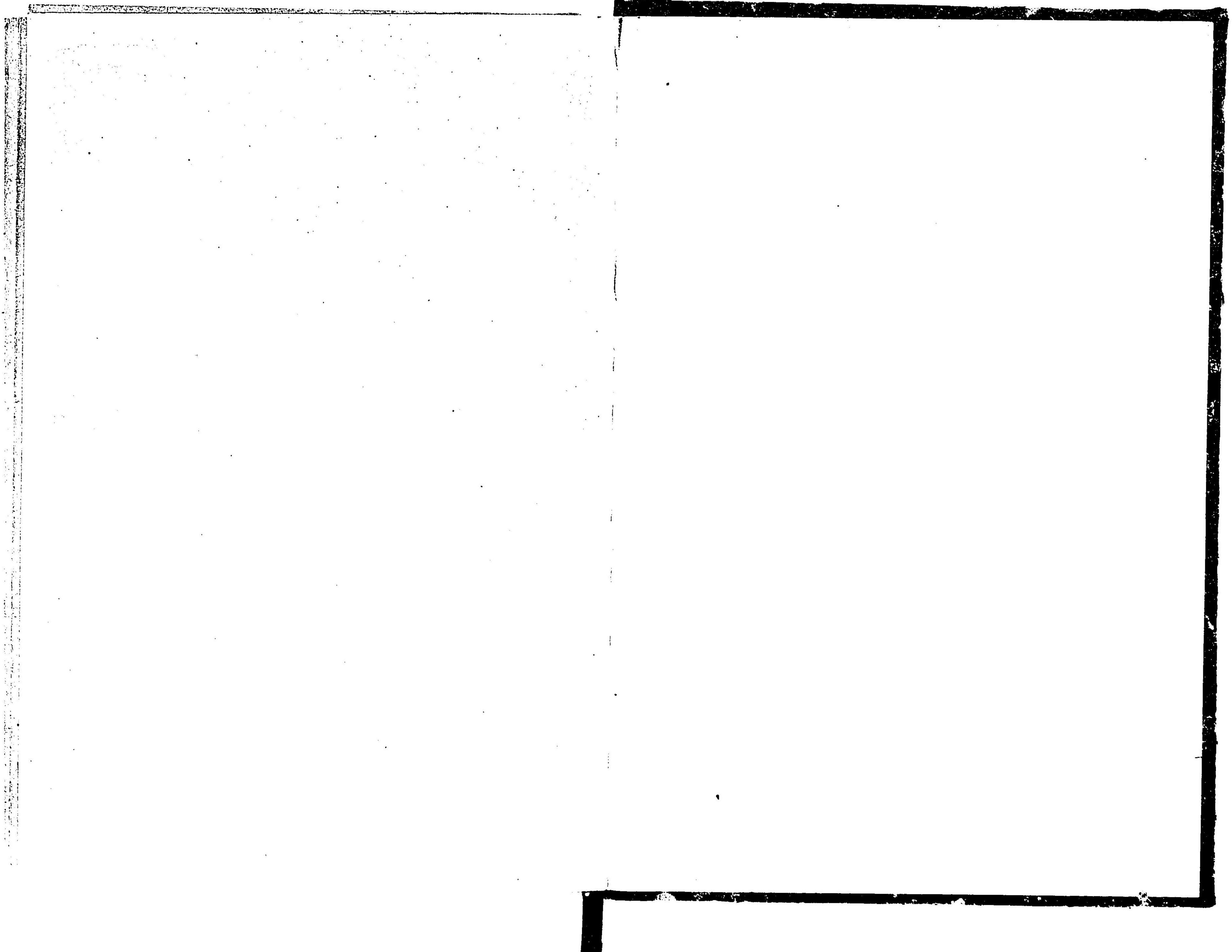


40

130

墨國太平洋沿岸巡回復命書補遺



1879654

墨國太平洋沿岸巡回復命書補遺

○テフアンテベツク鐵道



「テフアンテベツク」ハ「ニカラグア」ト共ニ「バナマ」運河ノ比較線トシテ一
 千八百七十九年ノ巴里運河會議ヨリ世上ノ注意ヲ惹クニ至レリ米人
 「イース」氏ハ此地峽ニ架船鐵道ヲ設クル計畫ヲナシタルモ「バナマ」運河
 事業ノ光輝ニ壓セラレタルト氏ノ死亡ニ由テ殆ンド消滅ノ有様トナ
 レリ然ルニ「バナマ」運河ノ失敗ト「ニカラグア」運河ノ企業ハ頓ニ墨國政
 府ヲシテ「テフアンテベツク」ニ鐵道ヲ敷設スルノ必要ヲ感ゼシメタリ
 「テフアンテベツク」地峽ハ「オハカ州」及「ビラケラクル」州ノ南部ニ位
 シ「墨西哥灣」ト太平洋ヲ分ツ所ノ最狹部分ヲ指稱ス其南端ハ北緯十六
 度十分ヨリ起リ北端ハ十八度十分ニ終リ直徑約二百四十「キロメー」ト
 ル「即我」凡六十里餘アリ鐵道線ノ延長三百〇八「キロメー」トル「我」凡七十
 八里餘其太平洋岸ニ在ル起點ヲ「サリナクル」ト云ヒ「墨西哥灣」ノ方
 ニ在ル起點ヲ「コアアコアル」ト云フ地勢沈低ニシテ高峯峻嶺ナク
 鐵道線路中ノ最高處ハ「サリナクル」ト云フヨリ北八十「キロメー」トル「我」凡

二十里餘ノ地ニシテ二百八十呎ニ過ギズ是ヨリ次第ニ下リ以テ「コア
ツアコアルコ」ニ至ル要スルニ南部ハ沙地乾燥ニシテ暑氣強ク最高部
ハ石板岩又ハ大理石ヲ有スル山嶺ニシテ風景甚ダ美ニ氣候清涼ナリ
中部ハ泥炭泥濘相交リ瘴癘ノ氣アリ北部ハ最モ沃壤ニシテ南部ニ比
スレバ氣候宜シカラズト云フ

「テフアンテベツク」ハ酷熱瘴癘ノ地ト稱セラレ毒虫ノ巢窟ト稱セラル
ルト雖モ一度此地ヲ實踐セバ以上ノ評語ハ揣摩臆測タルヲ証スルニ
至ラン探検者ハ九月一日ヨリ十三日間「テフアンテベツク」市ニ止マリ
詳カニ其温度ヲ試験シタルニ日中ノ室内温度華氏八十八度ヨリ九十
四度ノ間ヲ往來スルニ過ギズ風土病ト稱スルモノハ輕症ナル間歇熱
ノ外之アルヲ見ズ前年鐵道工事ニ使役サレシ支那人ガ脚氣病ノ爲メ
ニ倒レタル地ハ「テフアンテベツク」ニアラズシテ是ヨリ北方六十哩「我
二十四里餘」ヲ隔テタル「オコテ」地方ニアリ技師某ノ説ニ據レバ支那人
ノ脚氣病ハ彼等自ラ携來シタル傳染病ナリト或ハ曰ク彼等ハ不潔ノ
食物ヲ食ヒ汗染ミタル衣服ヲ着シテ路傍ニ露宿シタレバコソ脚氣病

ニ罹リタルニテ畢竟營養不足ヨリ起リタルモノナリト或ハ然ラン「テ
フアンテベツク」ヨリ四十六キロメートル「我十一里餘」ノ北方三「リオ
ヅ」エ「ルデ」ト云ヘル小村アリ高度六十呎ニ過ギザレドモ夜中温度七十五
六度日中九十度内外ニシテ近傍ニ温泉アリ空氣甚ダ清爽ナレバ斯ル
地方ニ脚氣病アリトハ思ハレズ獨リ中部ノ池沼多キ部分ニハ「マラリ
ヤ」熱アリト云フ又「コアツコアルコ」港ハ「ザエラクルース」港ト直接ノ交
通アルヲ以テ時トシテハ黃熱病ノ襲來アリト聞ケリ是レ「テフアンテ
ベツク」ノ瘴癘地ト稱セラル、所以乎毒虫ノ事ニ至テハ全ク根據ナキ
ノ風説ナルガ如シ現ニ鐵道工事ニ使役セラル、工夫中虫毒ニ罹リタ
ル者アルヲ聞カズ

探検者ガ地峽鐵道工事ノ現況ヲ實見シタル上工事總監督技師長「ガル
フヒアス」氏ニ就テ取調タルモノハ左ノ如シ

一、該鐵道工事ハ南北兩工區ニ分割ス南工區ノ内全ク竣功シタルハ七
十二「キロメートル」我十八里餘現ニ瀛車ノ往復スルハ「チヴェラ」マデ
ニシテ「サリナクルース」ヨリ六十七「キロメートル」我十七里許北工區

ノ内竣功シタルハ合セテ百八〔キロメートル〕我二十七里餘未成百二
 十八〔キロメートル〕我三十二里餘總計三百八〔キロメートル〕我七十八
 里餘ナリトス全線完成マデニハ殆ンド一年ヲ要スベシ

一、此鐵道工事ニ關スル技術師ハ英、米、佛、獨ノ人多ク工夫ニハ都テ土人
 ナ使役ス工夫ノ數ハ乾季即チ十二月ヨリ六月マデノ間ニハ三千人
 雨季即チ七月ヨリ十一月迄ノ間ニハ壹萬五千人トナセリ其兩季相
 異ナル所以ハ卑低ノ部分雨季中ニ於テ雨水ノ妨害ヲ受クルガ爲メ
 ニ割増人員ヲ要スルヲ多キニ依レリ

一、工夫ノ賃銀ハ南工區一人一日七拾五仙北工區一人一日壹弗乃至壹
 弗五拾仙トス一人ニ付一日分ノ受持ハ二〔キユーピツク、メートル〕ニ
 テ之ニ對シ平均前記ノ賃銀ヲ給與スル方法ナリ

一、土壤ヲ開鑿スルニハ二〔キユーピツク、メートル〕ヲ貳拾五仙トシ石板
 岩ノ部分ハ二〔キユーピツク、メートル〕ニ付南工區六拾仙北工區ハ之
 ナ七拾五仙トス堅岩ヲ開鑿スルニハ二〔キユーピツク、メートル〕ニ付
 南工區壹弗四拾仙北工區壹弗五拾仙トス

一、全線貫通シタル上ハ直ニ副線ヲ敷設シ以テ旅客荷物ノ速達ヲ謀リ
 兩大洋ヲ連絡スルニ遺憾ナカラシムル筈ナリ

一、北工區ノ起點ナル「コアツアコアルコ」ハ最良ナル河港ニシテ現ニ小
 漁船ノ往復アリ少シク改良ヲ加ヘナバ吃水二十八〔フート〕ノ船舶之
 ニ入ルヲ得テ此鐵道ノ効用ヲ全クスルガ如シト雖モ「サリナクル」
 スノ港灣ハ之ニ反シテ甚ダ惡シキガ故ニ南工區ノ起點ヲ他ノ良港
 ニ遷スノ計畫アリ技師ヲシテ密カニ之ヲ探求セシメ居レリ〔「テファ
 ック」縣令「ロブレス」氏ハ「サリナクル」ノ南ニ
 在ル湖水ノ一港ヲ以テ之ニ充ツルノ見込ナリト語レリ〕

一、「パナマ」ニカラ「グア」ノ掘割成就セバ此鐵道ハ無用ニ歸スベシトノ說
 アレドモ實際上ニ於テハ斯ル憂アルヲナシ何ントナレバ西印度諸
 島ト墨西哥西灣ニ濱スル合衆國諸州トノ貿易ハ日々多キヲ加ヘ而シ
 テ「コアツアコアルコ」ト相距ルヲ遠カラザレバ是等ノ諸港ヨリ太平
 洋諸港ニ赴ク貨物旅客ハ皆此線路ヲ經過スベク又紐育邊ヨリ太平
 洋諸港ニ赴ク旅客貨物トモ時日ヲ急グモノハ此線路ヲ經過スベシ
 此事ニ關シテハ墨國政府モ充分ナル調査ヲ遂タルモノナリト云フ

一、南工區ノ既成線ニ費シタルモノハ假橋開鑿ヨリ敷設費マデ合計五百萬弗ニ過ギザレバ全線ノ費用推知スルヲ得ベシ然ルニ「サルヴァドル、マロ」氏ハ實ニ二百七十萬、ステルリング「墨貨一千七百二十八萬弗」ヲ要求シ之ニ對シテ沽票壹千五百二十八萬弗ヲ募リタリ之ヲ時價ニ積リ六割六分トスルモ「マロ」氏ノ虛計ヲ以テ他人ヲ欺キタルヲ知ルベシ

一種々ノ事情アリテ此鐵道ノ工事請負會社ハ三回變更シ現今ノ請負會社長ヲ「ジェー、エツチ、ハンブソン」ト稱ス

墨國鐵道ハ大抵外人ノ會社ニ屬シ墨國政府ハ其會社ニ特許ヲ與ヘテ保護金ヲ交付スルニ過ギザレドモ此鐵道ハ軍事上商業上航權上ニ關シテ至大ナル關係ヲ有スルガ故ニ此線路ニ限リテハ官設トナシタルモノナリ請負會社ノ失敗等ニ依リテ意外ニ多クノ歲月ヲ要シタレドモ墨國政府ハ初ヨリ確實ナル基礎ニ據リテ倫敦銀行ト契約シタレバ資本ノ出所ニ不足ヲ告グルノ憂ナク銳意之ヲ遂行スルニ至レリ此地峽鐵道ハ實ニ墨國ノ利害ニ至大ナル關係ヲ有スルノミナラズ將

來我國ノ商業及ビ航權上ニ尠カラザル關係ヲ生ズベシ

墨國政府ハ夙ニ「サルヴァドル、マロ」氏ト日本支那ノ間ニ定期航海ヲ開クノ希望ヲ有シ「サルヴァドル、マロ」氏ニ一航海毎ニ壹萬五千弗ノ助成金ヲ與フルトテ特約シタル事アリ探檢者墨府ニ在テ日墨間ノ航海上ニ關スル意見ヲ大藏大臣「ロメロ」氏及ビ農商務植民大臣「レアル」氏ニ提出シタルニ兩氏ハ大ニ之ヲ贊シ可及的ノ盡力ヲナスベキ旨ヲ答タリ若シ日本郵船會社ニシテ自ラ進ンデ此航路ヲ取ラント欲セバ墨西哥政府ハ必ズ悅ンデ助成金ヲ與フベキナリ夫然リ然レモ若シ日墨間ノ航海ハ利益ナシト云フモノアラバ是「テフアンテベツク」鐵道ノ効用ヲ知ラザルモノナリ墨西哥灣ノ貿易實況ヲ調査セザルモノナリ「サルヴァドル、マロ」氏ノ航路ハ「ニカラグア」運河ノ開通ト共ニ之ヲ延長スルノ利ヲ知ラザルモノナリ而シテ「テフアンテベツク」鐵道貫通ノ期ハ本年九月ニアリ日本郵船會社ニシテ早く手ヲ下サミレバ其利權恐ラクハ他國人ノ手ニ落ツベシ

明治二十六年五月二十五日印刷
明治二十六年五月二十六日發行

印刷兼發行者

外務大臣官房移民課

40
130

